

平成26年3月28日

報道関係 各位

4月6日、9年ぶりに手杵まつりが復活！

矢代区では平安時代から太平安泰・五穀豊穰・無病息災を祈願し、毎年福寿寺・加茂神社に手杵まつりを催行しておりましたが、少子高齢化により後継者が減少し、平成17年を最後に休止せざるをえない状況になりました。

今回、関係者のご理解を得て、地域住民の賛同者を募り、9年ぶりに県指定民俗無形文化財である手杵まつりを復活することとなりました。現在、区内の講師が熱心に指導しており、最高の舞を披露すべく努力しております。

関係者の皆様には、何卒、手杵まつりの周知にご協力いただきますようお願いいたします。

記

現在までの経緯	H25. 8月	矢代区会で復活決定
	12月	矢代小委員会で審議 (パンフ見直し、大役所作まとめ、 歌まとめ)
	H26. 1月	矢代区初集会 (まつり体制等の決定)
今後の予定	H26. 3～4月	舞、歌の稽古
	H26. 4/5	宵まつり
	4/6	手杵まつり 10時45分から

お問合せ先 矢代区手杵まつり保存会会長 池端孫勝
(TEL 090-1631-3592)

県指定民俗無形文化財「手杵まつり」について

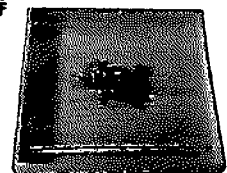
矢代まつり(地区の呼び名)は、その特異な装束での舞と、いわれの趣きが述べられていることによって、多くの方々の注目をあびている奇祭である。村里の守り神に対して、繁栄と豊穡を祈るおまつりであり、平安の昔から矢代に春を告げる儀式となっている。

1. 矢代崎弁天宮と宵まつり【前日午後】



- ・前日午後、王女らが祀られている矢代崎弁天宮へ、加茂神社の大桶宜(おおねぎ)が小舟で渡り、参拝する。(1時間) ※時間は、海上の状況で変更される。
- ・前日午後6時、福寿寺横の弁天小宮で、宵まつり(神事式)を催行する。(30分)
この弁天小宮は、矢代崎弁天宮が容易にお参りできない場所にあるため、分祀されている。

2. 福寿寺(観音堂)での行事【10:45~11:15】



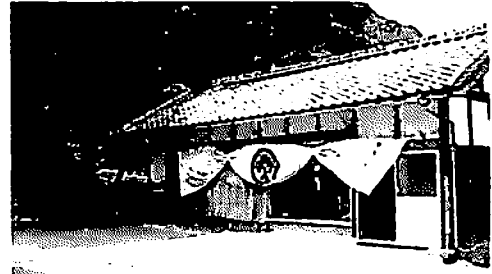
- ・福寿寺にて、西福寺住職らにより、王女らの霊を慰める。
- ・王女らが飢えをしのぐため食したといわれるヘラモをいただき、往時をしのぶ。
※ヘラモ：矢代湾内で自生している、ヘラ状の藻の一種である。
- ・福寿寺は、唐舟(からふね)を解体した材木で、建立されたと言われている。

3. 加茂神社での行事【11:20~12:00】



大役の正装

- ・大役の正装(手杵棒ふり1名、弓矢持ち2名)
- ・顔を墨で絵取る(えどる)：演ずる者の士気を高め、その所作に情感と躍動を表す。
- ・荒縄のたすき掛け：しめ縄にも使う荒縄をたすきに用いる。
- ・頭のシダ：めでたい時に使われるウラジロを、頭に戴く。
- ・着付けの間、若衆らが太鼓を打ち、祝い歌である祭礼・甚句を歌う。



長床(長屋)

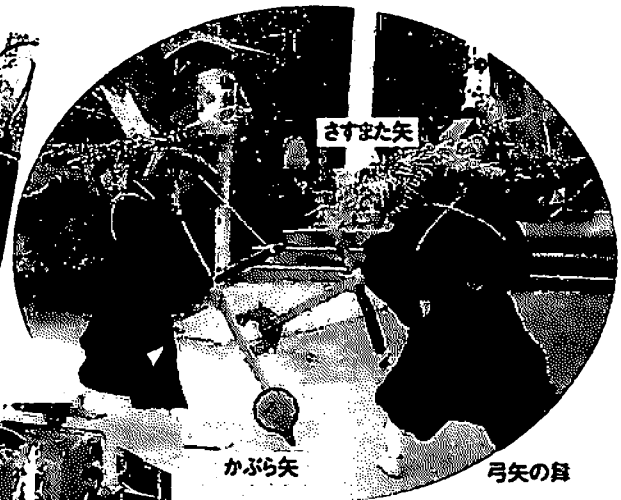
- ・加茂神社本殿で、神官が御盃を鎮め奉る。【10:30頃】
- ・福寿寺行事後、氏子は宮に参拝し、長屋に上がってお神酒をいただく。

4. 加茂神社・福寿寺での舞と行列【12:00~13:00】

(行列順序：手杵棒ふり→弓矢持ち→唐船丸→練り子→大太鼓→笹持ち)



手杵の舞(左：地、中央：天、右：中)



かぶら矢

弓矢の舞



王女・太鼓らの行列



唐船丸(とうせんまる)

- ・手杵の舞：村里の繁栄を祈願し、舞う。地・天・中の舞の所作は、「地の利を活かし、天の恵みを仰ぎ、人の和を結ぶことによって繁栄する」ことを表す。
- ・弓矢の舞：春の訪れを祝い、豊穰を願う。また、地名の伝承ともいわれる。
- ・王女行列：練り子たち(8人)は、頭に宝頭巾(たからずきん・財宝を表す)を戴く。その後ろには、太鼓、縁起物の笹を持つ笹持ち(4人)が続く。
- ・唐船丸：王女ら一行が乗った船のミニチュアを飾り、若衆(6~8人)らがかく。

[Faded text, illegible]

[Faded text, illegible]

(00:01 - 02:11) 11:00 AM '88

[Faded text, illegible]

[Faded text, illegible]

[Faded text, illegible]